

見える化 企画案

1.見える化企画の概要

みどりアップ計画、みどり税をわかりやすく伝える手法を検討します。

市民に開かれたフォーラムや市民参加型のイベントの開催により、情報提供と市民意見の把握を行いみどりの創造と保全に係る取組のすそ野を広げます。

企画ごとにターゲットとなる年齢層などを明確にし、個々の企画を立案します。

2.見える化企画関連のこれまでの取組

- ・リーフレット「横浜みどりアップ計画と横浜みどり税」の作成
- ・みどりのオープンフォーラムの開催(平成 22～25 年度)
- ・こどもフォーラム「まちもり探検キッズ」開催(平成 27 年度)

概要:

平成 28 年 3 月 12 日、にいほる里山交流センターで開催。広報・見える化部会による「子ども向けリーフレット」作成を契機とし、身近な緑について語り合うフォーラムを開催。

- ・アンケート調査実施(平成 30 年度)

概要:

2018 年 4 月 21 日、里山ガーデンにて市民推進会議のブースを出展。市民推進会議のこれまでの活動をパネルを展示するほか、来場者にアンケートを実施し、身近な緑について直接市民の声を聞くことを目的に実施。

アンケートの結果

・8 割の方が「市内のみどりに触れたり感じたりする機会がある」と回答

・自由意見

今ある横浜の緑を残してほしい／みどり税は知らなかったが、緑は好きなので活用してほしい／身近な里山の自然をそのまま楽しめたり、再生するようにしてほしい など

- ・市民参加型の調査部会の開催(平成 27～30 年度)

概要:

年1回開催される市民推進会議委員による調査部会に、一般市民の参加を募り、市民と一緒に現場視察を行い、意見交換を行うことで、直接市民の声を聞くことを目的に実施。

3.これからの見える化企画 検討案

目的 若年層の認知度アップへつながる広報企画の展開

(1)委員提案 ⇒評価・提案へ

・市民参加型企画の提案

例)景観の絵画・写真コンクール

→ みどりアップ計画に関連する景観であることが必要(市民の森や水田など、対象を限定するなど)
賞はどうするか。12枚選んでカレンダーにするのもいい。

・PR イベントへの提案

例)緑とは関係のないイベントにも積極的にブース出展する

・PR グッズへの提案

(2)委員主催

・市民参加型の調査部会の開催(市民との意見交換)

・Instagramを利用した若い世代への魅力発信→みどりアップ推進課が準備中

→インスタを活用した企画が何かできれば!

例1)委員自らアカウント作成し、積極的に#みどりアップで投稿

例2)#みどりアップの一般投稿の中から、良かったものを市民委員賞としてActionに掲載 等

・一人から始められるみどりづくり・アプローチを体系的に分かりやすく表す冊子やwebページの作成

→どんな人に配布することを想定したものにするか、事業を絞るか。

→すごろく(人生ゲーム)等、ゲーム感覚でみどりアップを体験できるものはどうか。

(3)その他

・緑に関連している人へ実態、意識調査分析

→ 資金はどうしているのか、活動のきっかけは、今後の展望、どうすれば守っていけるのか等。